

# IETF に参加する目的とコスト

楽天株式会社  
赤桐壮人

# 自己紹介

## 赤桐壮人

- 所属; 楽天株式会社
  - インターネットエンジニアリング推進室 室長
- 専門; Email
- コミュニティ;
  - ISOC-JP プログラム委員
  - JEAG (Japan Email Anti-abuse Working Group)
  - dkim.jp (Japan DKIM Working Group)
  - その他
- 略歴;
  - NTT → ぷらら → Openwave → 楽天

# IETF での Area 等

- Application Area が中心
- Working Group
  - eai:[close]
  - yam:[close]
  - marf:[close]
  - repute:[close]
  - (dkim:[close] ← SEC)
  - sieve:[close]
  - spfbis:[close]
  - dmarc:[active]
  - appawg ← 細かいのはココに出て来る

# 個人的な課題

2～6 (コマ)

---

約 30 コマ (1週間)

※ 1コマ ≒ 60分、6コマ/日

- appsawg は月曜の朝一 2コマ
- Email 関係は参加者 5 人ということもある



分野が小さ過ぎて目的意識をしっかりとっていないと  
コストにまったく見合わない

# コスト

- 1回の参加で直接的に約**45万円**
    - IETF 参加費: \$700 (約 9万円)
    - 航空券、交通費: 約20万円
    - 宿: 約15万円 (2万円強 × 7泊)
    - その他 (日当、通信)
  - 人件費 (自分の稼働費)
    - **40万円**くらい? (人月の 25%)
- ==> 楽天の場合、50~150万/月くらいで計算
- = 約85万円

実際は、もっと必要だろう

もし上司が参加を OK してくれないなら、

約85万円の価値を説明しきれんかどうか 1st STEP

# WG やコミュニティの活動と目的

## Level 1: 情報収集

- 特に一回目は参加すればOK かもしれない
- 楽天には OSC プログラムというのがある

## Level 2: 発表 (議論)

- 自分でネタを持ち込む
- Q&A に参加して発言

## Level 3: ネットワーキング

- 関係者との密なコミュニケーション

※ ある一側面での視点。情報収集から国内展開や社内展開につなげる等、「作る」方でなく「使う」スペシャリストもいるだろう。

# コスト問題の解決

- ビジネスミーティングをセットにして出張
  - 月、火、水は IETF（水曜日の晩に移動して）
  - 木、金は別の場所でビジネスミーティング
- IETF 単体を活動の目的にしない
  - 他の活動と合わせた Big picture を描く
  - 長期計画で吸収
- Scope の拡大
  - IPv6, http/2...

皆さんが管理職なら、

経営層を説得出来る**ビジョン**を持っておく



Noを言うだけのいけないマネージャもいる